

議事概要

令和3年度 第1回 新潟市若者支援事業運営協議会

日 時： 令和3年9月27日（月） 午後1時30分～3時30分

場 所： 新潟市役所 ふるまち庁舎 4階 401会議室

出席者： 新潟市若者支援事業運営協議会委員

青山委員、伊藤委員、田村委員、丸田委員、横尾委員、渡邊委員
事務局

地域教育推進課長ほか8名

傍聴者： なし

1 開会

2 地域教育推進課長あいさつ

3 議事

(1) 令和2年度の事業報告について

(2) 令和3年度の事業実施概要について

(3) 今後の取組および若者支援センターのあり方について

(青山委員) 発達の問題、家族の問題、性嗜好の多様化など、若者に関する相談ニーズというのはたくさんある。高校も通信制が増えてきており、若者支援センターのような居場所がないと困ってしまうので、事業の継続をしてほしい。SNSの普及で、警察との連携も必要となるのではないかな。

(伊藤委員) 市の施設で、ふらっと来られて、相談につなげることができる機能があるということを伝える必要がある。高校やスクールカウンセラーと連携して、中退後の受け皿になれないか。グループで悩みを話す場所など、居場所の中で段階を分けて運営してはどうか。

(田村委員) 退学者の半分は人と関われない状況であり、相談機関に確実に一度はつないでみようとして高校の職員が共通理解していかなければいけない。定時制だけでなく、全日制や大学でもそういう人が多くいると聞くので、相談機関を必要としている若者を広報することが必要ではないかな。

(渡邊委員) サポートがない家庭の場合は、ユースアドバイザーとの関わりが重要で、ミニ講座に参加している若者の、ここからの学びは大きい。このような居場所というのは本当に自分自身の力を付けるために必要だと思っている。

(横尾委員) 若者支援センターの取組に、地域福祉的な部分が入ると良いのではな

いか。子育て支援でも不登校や登校しぶりが増えており、ケース検討などの情報共有や、子ども食堂にユースアドバイザーと一緒に若者が参加するなど、一緒に事業展開できないか。

(丸田委員) 現在の若者支援センターが十分機能しているかという点、そこにもう少しいろいろなものを加えながら、より良い施設にしていきたい。今日出た事柄を整理し、実際に若者支援センターを会場にして、明確にした論点に対して意見交換をするような方向性を検討してほしい。

(事務局) 検討したい。

(4) 意見交換

(5) その他

4 閉会

【配布資料】

- ・資料1 新潟市若者支援事業運営協議会開催要綱
- ・資料2 若者支援の概要と現状